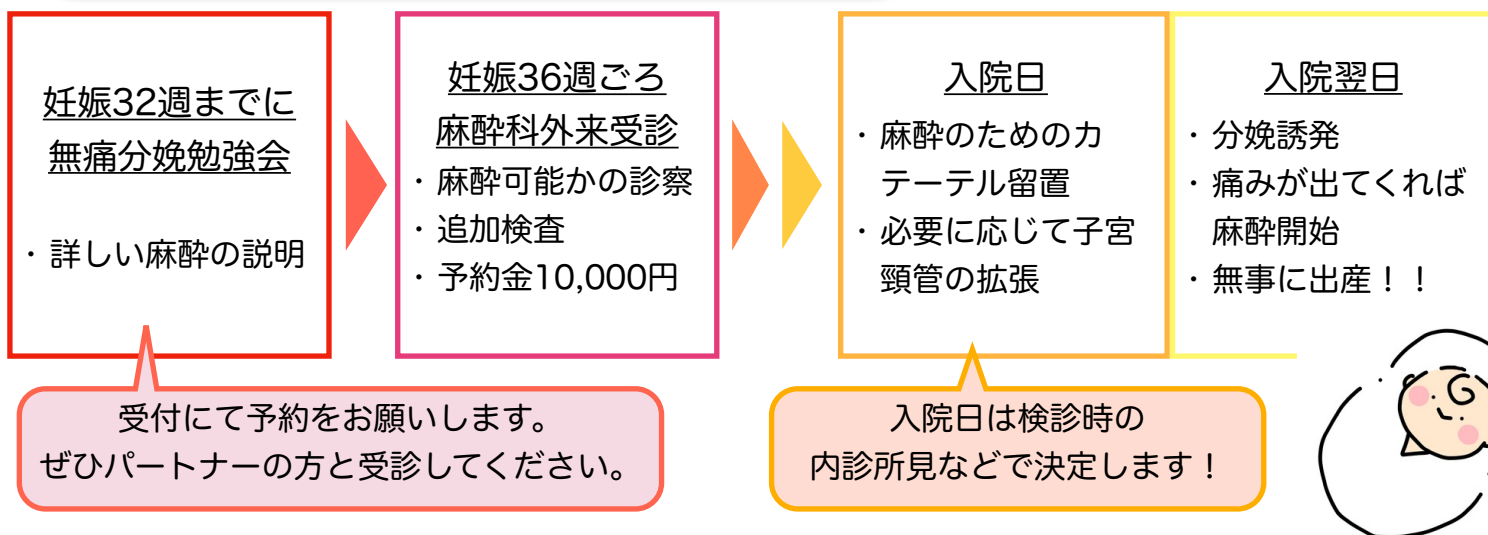


# 『無痛分娩』を考える 妊婦さんにご家族の皆様へ

## 無痛分娩について

- 無痛分娩とは、陣痛の痛みを麻酔を使用して最低限まで和らげる分娩方法です。全ての痛みを取り除くわけではありません。
- 当院における無痛分娩は、予め出産日を設定しその日に陣痛促進剤などの医療介入を行う、計画分娩でのみ行なっております。休日夜間に計画外の陣痛発来があった際には筋肉注射による産痛緩和で対応させていただきます。
- 安全に無痛分娩を管理させていただくため、週に4人までの予約枠とさせていただきます。
- 主に経産婦の方を対象とさせていただきます。初産婦の方でもご希望があればご相談ください。
- 厚生労働省から2022年4月27日に公表された医療施設（静態）調査結果によると帝王切開も含めた全分娩のうち無痛経膈分娩率は8.6%と、近年増加傾向です。

## 無痛分娩を行う際のスケジュール

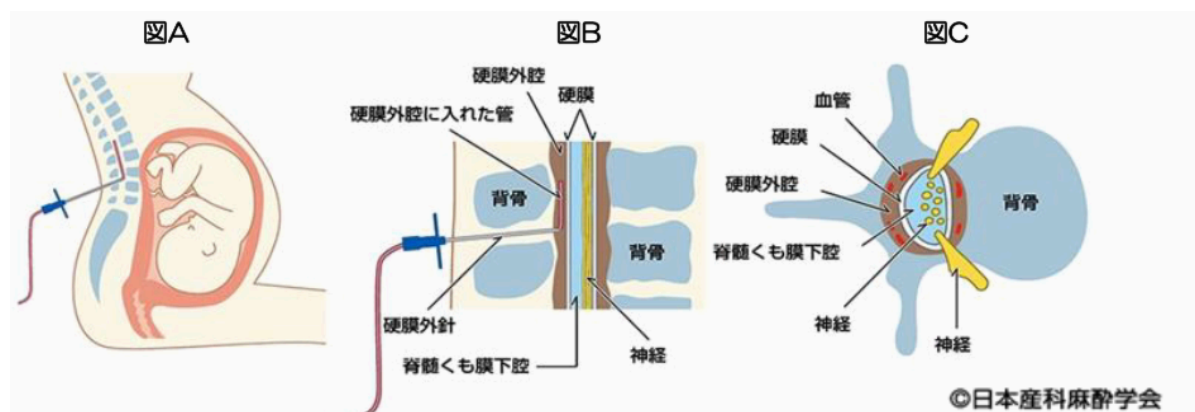


## 当院の無痛分娩料金

- 無痛分娩の費用として、通常分娩費用に加えて10万円（自費診療・税別）をいただいております。分娩遷延により入院延長や追加処置を要した際には追加料金が発生する可能性があります。
- このうち、予約金1万円を無痛分娩予約時にお支払いいただきます。この予約金は追加検査などの費用となりますので、キャンセルとなった場合でも返金致しかねます。（休日夜間に陣痛発来の場合には、筋肉注射による産痛緩和に代えさせていただきます。）
- 無痛分娩費用には、無痛分娩に使用する特殊な針や麻酔薬の料金も全て含まれております。そのため、分娩の満足度に関わらず、料金は発生しますのでご了承ください。

## 使用する主な麻酔（硬膜外麻酔）

お母さんの体を図Aに示します。背骨の周辺を拡大したものが図Bです。同じ部分の背骨を水平の断面で見たものが図Cになります。分娩台の上で、横になるか、座った状態で背中を丸くして、背中を消毒し、腰のあたりに局所麻酔をします。脊柱（背骨）の骨の間隙から針を挿入し、硬膜外腔というところに直径1mm以下のカテーテル（管）を留置します。このカテーテル（管）から麻酔薬を入れることにより分娩の痛みを軽減します。



36週までに麻酔科外来を受診し、追加検査・診察した上でこの処置が安全に行うことができると判断された方のみ、予約をお受けします。この際、血液凝固障害や背骨の手術歴などの既往歴、急激な体重増加（妊娠前より12kg以上の増加）のある方はお断りさせていただく場合があります。

## 無痛分娩のメリット・デメリット

詳しい説明は  
「無痛分娩勉強会」にて！

### ○ 無痛分娩のメリット

陣痛の軽減により落ち着いて分娩に臨むことができます。分娩時のダメージが少なく、産後の回復が早くなることが多いです。

### ○ 無痛分娩のデメリット

1. 分娩が遷延する可能性があり、鉗子分娩・吸引分娩が増加します。また、陣痛を促す薬を使う頻度が高くなります。
2. 起こりうる副作用・合併症：血圧の低下、胎児心拍数の低下、かゆみ、頭痛、体温上昇、腰痛・下肢の神経障害、排尿障害
3. 極めて稀な重篤な合併症：硬膜外血腫・膿瘍、局所麻酔薬中毒、高位・全脊髄くも膜麻酔、薬剤アレルギー神経障害・アナフィラキシーショック

日本産科麻酔学会  
無痛分娩Q&A  
一般の方向けです。  
ぜひご覧ください。



## 当院における無痛分娩の診療体制と安全対策

無痛分娩には上記のような危険を伴うため、当院では厚生労働省の通達「無痛分娩の安全な提供体制の構築について」（平成30年4月20日）に基づいた診療体制を整えています。

